

# 令和元年度 清原中央小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す児童像含む）

児童の心身の発達にふさわしい教育を推進し、豊かな思考力・判断力・表現力を培い、心の教育を重視しながら、強靱な気力・体力と思いやりのある心や自主的精神に満ちた実践力を身に付け、自らの向上とよりよい社会の発展に貢献しようとする、心豊かでたくましく生きようとする人間を育成する。

◇ 具体目標（めざす児童像）◇

- 1 自ら学び工夫する子ども（考える）
- 2 元気でがんばる子ども（鍛える）
- 3 礼儀正しく思いやりのある子ども（思いやる）

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ 「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」

心豊かでたくましい子どもの育成には、子どもが生き生きと楽しく学習や活動に取り組む、明るく活気ある学校づくりが重要である。そのために「子どもが楽しく学び、居がいを感じる学校」「教職員が特性を生かして、指導力を発揮する学校」「保護者・地域から信頼される、魅力ある学校」を目指す。また、教職員の働き方改革を引き続き推進する。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

全職員が学校教育目標の共通理解に努め、調和の取れた教育活動を展開し、合言葉や具体目標の重点化を通して、教育目標の具現化に努める。

- (1) 常に「全ては子どものために」を念頭に置き、一人一人が清原中央小学校の職員であることの自覚と誇りをもって勤務し、公務員及び教職員としての資質や指導力の向上に努める。また、「働き方改革」の理念を踏まえた取組も引き続き推進する。
- (2) 職員一人一人が率先垂範の精神で児童の教育に当たり、その姿勢を通して児童に学ぶ意欲や思いやりの心を育てる。また、一人一人の児童の夢を育む教育活動「夢いっぱいプロジェクト」をより一層推進するとともに、確かな学力、個性を生かした教育と生きる力の育成に努める。
- (3) 地域学校園内の小中学校はもとより、保護者や地域社会、各種団体との連携を密にし、地域の教育力を生かし、地域に開かれた信頼される学校にする。

〔清原地域学校園教育ビジョン〕

自己を見つめ、自己のよさを生かした夢の実現に向けて主体的に取り組む児童生徒の育成  
～人との豊かなかかわりを通して～

## 4 教育課程編成の方針

- (1) 「第2次宇都宮市学校教育推進計画」「第2次宇都宮市学校教育スタンダード」「平成31年度指導の重点」を踏まえて、創意ある教育課程を編成する。
- (2) 地域社会や保護者の願い、児童の実態・特性、学校の施設・設備、職員組織の実態等を十分考慮して、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指して編成する。
- (3) 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、必要な思考力、判断力、表現力その他の資質・能力を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うことを目指して編成する。
- (4) 前年度の教育活動や学校評価の反省を十分に生かすとともに、教科等の相互の関連を図った系統的・発展的な指導を心掛け、児童の自主的・実践的活動や体験的な活動を多く取り入れた特色ある教育活動が展開できるよう編成する。また、「社会に開かれた教育課程」の観点から地域等の意見の反映にも努める。

## 5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

### 【 学 校 運 営 】

- ・夢を育む教育活動の推進と教職員の資質・指導力の向上（清央PRIDE）
- ・「働き方改革」の推進及び分離新設に向けた検討、校内の業務の適正化

### 【 学 習 指 導 】

- ・自分の考えをもち、豊かに表現する児童の育成 ～「読むこと」の国語の授業を通して～

### 【 児 童 生 徒 指 導 】

- 自ら進んで元気よくあいさつができ、周囲に対して思いやりの心をもち、積極的に友達と関わり合える児童の育成

### 【健康（体力・保健・食・安全）】

- ・自らの健康・体力の維持向上に関心をもち、生涯にわたって健康的な生活をしようとする児童の育成

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業のねらいを明確にして児童に示すとともに、考える時間を確保したり授業形態を工夫したりして、児童が積極的に授業に取り組めるよう支援する。</li> <li>可能な範囲での教科担任制やローテーション授業を実施し、複数の教職員が児童一人一人の頑張りや良さを積極的に認めたり賞賛したりすることで、児童が自信を深め、意欲的に学習に取り組めるように支援する。</li> </ul>	B	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答の割合は、児童が 92.0%、教職員が 97.8%、保護者が 91.0%で、いずれも数値指標を上回った。</li> <li>ペア学習やグループ学習など、学習形態を工夫するとともに、ローテーション授業を実施して、児童の良さを多角的に評価した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、授業のねらいを明確にし、考える時間を確保したり、授業形態を工夫したりするなどして、児童が積極的に学習に取り組めるよう支援する。</li> <li>教科担任制やローテーション授業を効果的に実施することで、学習意欲を高め、学習内容の定着を図る。</li> </ul>
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答 90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動や学校行事などに縦割り班活動を積極的に取り入れ、上級生が下級生の面倒をみる場を設定する。</li> <li>道徳科の授業と全教育活動との関連を図り、思いやりのある豊かな心情を育む。</li> </ul>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答の割合は、教職員が 97.8%と数値指標を上回ったが、保護者、児童は 84.7%、88.9%と下回った。</li> <li>清掃活動やドリームタイム、収穫祭等において異学年の交流を深めた。</li> <li>挨拶と思いやりを常に意識できるよう、強化週間を設定して取り組んだ。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>縦割り班活動の取組を HP に効果的に更新するなど、活動の様子を保護者や地域に積極的に発信する。</li> <li>家庭と連携して、思いやりの行動の定着が図れるように指導していく。</li> </ul>
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「清原っ子の約束」等、学習のきまりをもとに、「カテ学ふり返しシート」により家庭での学習の仕方の指導を徹底するとともに、よくできたことについては積極的に賞賛し、児童の意欲を喚起する。</li> <li>週の生活目標を設定し、児童の実態や時期に応じた基本的な生活習慣（重点目標）の徹底を図るとともに、学年日より等に月目標を載せ、保護者の協力を得る。</li> </ul>	A	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答の割合は、教職員が 89.1%、保護者が 90.4%、地域が 100%と数値指標を上回ったが、児童は 83.1%と下回った。</li> <li>「清原っ子の約束」や「カテ学ふり返しシート」を配付して、家庭学習の重要性について保護者へ啓発を図り、指導の効果を高められるように努めた。</li> <li>週ごとに生活目標を基に、生活委員会の活動を生かして、意識付けを行った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習や生活のきまりを定期的に振り返りながら、児童の実態を捉えるとともに、学年に応じて重点的に指導する。</li> <li>児童の主体的な活動を取り入れながら、生活目標の周知と定着を一層図っていく。</li> </ul>

<p>A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○常時指導を強化するとともに、児童主体の「あいさつ運動強化週間」を実施する。また、清原地域学校園、地域協議会、PTAと連携・協力してあいさつ運動を展開する。</p> <p>・教職員が率先して挨拶し、児童が挨拶する機会を増やす。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、児童が86.7%、地域が91.1%と数値指標を上回ったが、教職員、保護者は80.4%、73.4%と下回った。</li> <li>・「あいさつ運動」を中心に児童主体の啓発活動を行い、挨拶の定着を図った。</li> <li>・児童の手本になるように教職員から率先してあいさつをすることに努めた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつ強化月間を設定し、継続的に意識付けを図っていくとともに、保護者や地域に学校の取組を積極的に発信して、連携・協力の輪を広げていく。</li> </ul>
<p>A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や児童会活動、学級の係活動において、児童が主体的に活動できる場を随時設定し、個人や集団で目標達成に向けて根気よく取り組めるよう支援する。</li> <li>・児童一人一人が、学習課題に根気よく取り組めるよう支援するとともに、望ましい学習集団をつくり、互いに考えを伝え合いながら、個々の学びを深めていけるよう支援する。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、児童が90.4%、教職員が97.1%と数値指標を上回った。</li> <li>・学校行事や児童会活動、学級の係活動等で自分の役割を自覚し、友達と協力して取り組む姿が見られた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も代表委員会や各種委員会活動で、児童が主体的に活動できるよう、めあてを明確にもたせながら取り組ませる。</li> </ul>
<p>A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・給食だより・保健だより等を活用するなどして、朝食の大切さや偏食を話題にし、保護者への啓発を図る。また、「朝食を食べよう週間」を設定し、望ましい食生活の習慣化を図る。</li> <li>・年2回「キラキラウィーク」を実施し、児童の歯磨きに関する実態の把握と啓発を図る。</li> <li>・登校班長会議や登下校指導、休み時間の生活指導を行い、事故を防ぐとともに、自ら安全に生活しようとする習慣を十分に身に付けさせる。</li> <li>・避難訓練や交通安全教室など、交通や災害に対する安全教育を強化するとともに、日常の生活の中の危険について学年に応じて丁寧に指導する。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、児童が90.9%、教職員が97.8%、保護者が86.5%で、いずれも数値指標を上回った。</li> <li>・授業や学校行事を通して、健康や安全に関する意識を高めるとともに、各種たよりを通して保護者への啓発を図り、連携して望ましい生活習慣の定着に努めた。</li> <li>・登校指導や班長会議、学年下校指導を通して安全な登下校の習慣化を図った。</li> <li>・避難訓練（地震火災・竜巻・不審者）や引渡し訓練を実施し、各学級において訓練を振り返り、発達段階に応じた指導を継続した。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度、更に児童数が増加することを踏まえ、学校生活の中の危険について職員で共通理解を図りながら、児童の指導に当たる。</li> <li>・保護者や地域の安全ボランティアと連携を図りながら、児童が健康安全を意識した行動を習慣化できるようにさせる。</li> </ul>

<p>A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 ※A5で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や児童会活動、学級活動において、児童一人一人が自分の役割を果たせるようにするとともに、活動を振り返り、今後の生活に生かせるよう支援する。</li> <li>・「夢いっぱいプロジェクト」を推進するとともに、道徳科や学級活動を通して、自他の良さが認められる場面を設定し、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。</li> </ul>	<p><b>【達成状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合はA5に同じ。</li> <li>・「夢いっぱいプロジェクト」の活動を通して、めあてを達成する達成感を味わう機会を得ることができ、自己肯定感を高めることができた。</li> </ul> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人だけでなく委員会活動やクラブ活動においても、めあての達成に向け、個々の役割を果たせるよう支援していく。</li> <li>・ローテーション道徳により、他学級の児童の良さを教員同士で共有する。</li> <li>・キャリアパスポートを活用し、自分の夢に向き合うきっかけ作りをする。</li> </ul>
<p>A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTを効果的に活用し、英語でのコミュニケーションに親しむ機会の充実を図る。</li> <li>・ALTによる読み聞かせ等の実施について検討し、授業以外にも英語に親しめるよう努める。</li> <li>・英語専科教員が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。</li> </ul>	<p><b>【達成状況】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、児童が86.9%、教職員が97.8%と数値指標を上回った。</li> <li>・ALTと事前に打合せを行い、役割分担を明確にすることによって、ねらいに沿った授業を展開することができた。</li> <li>・豊富な資料を効果的に授業に活用することができた。</li> <li>・ALTによる読み聞かせを、2学期から月に1回全学年対象に行うことによって、英語に触れる機会を作ることができた。</li> <li>・英語専科教員が中心となって、校内研修を2回開催し、クラスで使える英語や授業の流れを研修して、教職員の資質向上を図った。担任がALTや専科教員と共に授業を行うことによって、教職員の資質向上につながった。</li> </ul> <p><b>【次年度の方針】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、ALTによる読み聞かせや会食を行い、英語に親しむ機会を設ける。</li> <li>・英語専科教員が中心となって、校内研修を開催し、教職員の資質向上を図る。</li> </ul>

<p>A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科やチャレンジタイム等で、清原地区の特色を調べ、その良さを意識できるようにする。</li> <li>・身近な地域の良さを踏まえ、市全体の特徴を捉えられるよう学習活動を工夫していく。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、児童が 82.1%と数値指標を上回ったが、教職員は 65.2%と下回った。</li> <li>・生活科や社会科、総合的な学習の時間を通して、宇都宮の良さを探したり、他地域と比較して特色を確認したりすることができた。</li> <li>・「宇都宮の歌」を音楽朝会で歌うことで、自分たちの住む宇都宮に親しみをもつきっかけとなった。</li> <li>・給食では「宮っ子ランチ」や「船頭鍋」を献立に取り入れ、地産地消の意識を高めた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度から始まる「宇都宮学」を中心に、宇都宮市と他地域との比較検討をすることで宇都宮の特色について理解を深める。</li> <li>・清原の豊富な地域教材を活用した学習を様々な教科において展開する。</li> </ul>
<p>A 10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科、領域において、パソコンやインターネット等を効果的に活用した授業を継続的に実施する。</li> <li>・担任と学校図書館司書が連携を深めながら、各教科の調べ学習において、学校図書館の積極的な活用を図る。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、教職員が 87.0%と数値指標を上回ったが、児童は 76.2%と下回った。</li> <li>・社会科や総合的な学習の時間での調べ学習を通して、パソコンを活用した授業を積極的に行うことができた。</li> <li>・学校図書館司書と連携し、テーマに応じた図書資料を準備し、授業に活用した。</li> <li>・デジタル教科書や実物投影機を使用し、視覚的に分かりやすい授業に努めた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内読書週間を次年度も実施し、本に触れる機会を確保し、読書郵便等の活動を通して、多様な分野の本に触れられるようにする。</li> <li>・パソコンについては、発達段階に応じて体験できる機会を意図的に設ける。</li> <li>・プログラミング教育において、児童のパソコンに対する必要性の意識を高めていく。</li> </ul>
<p>A 11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわり的心をもっている。</p> <p>【数値指標】 ※A 2 で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔遊びや出前講座等、高齢者と触れ合う機会を設定し、交流を図る。</li> <li>・「感謝の会」を実施し、登下校の見守りや読み聞かせ、学習等で支援を受けた体験を振り返り、感謝の気持ちをもたせる。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合はA 2 に同じ。</li> <li>・生活科の昔遊びや総合での昔の学校調べの学習では、高齢者の話を聞いたり、一緒に体験したりして交流を深めた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者との交流について積極的に情報を発信する。</li> <li>・直接関わりのない高齢者に対しての敬いや思いやりについては、道徳や総合的な学習の時間等で学ぶ機会を意図的に設ける。</li> </ul>

	<p>A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チャレンジタイムの学習を通し、身近な自分の生活と持続可能な社会との関わりを考えさせるなどして、福祉や環境、異文化交流への関心を高める。</li> <li>・生活科や委員会活動を通して、動植物を思いやる心を育てる。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、児童が85.1%と数値指標を上回ったが、教職員は45.7%と下回った。</li> <li>・5学年「ナルクの会」とのどんぐりの植樹活動や環境委員会の「アルミ缶回収」を通し、環境への意識を高めた。</li> <li>・総合的な学習の時間等で、環境に対する意識向上を図るとともに、高齢者体験や車いす体験などで福祉への理解を深めた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施した活動が何につながったのかを明確にするために各種たよりに結果を掲載したり、校内放送で周知したりすることで共通理解を図る。</li> <li>・物を大切にすることを育むために、記名や生活委員会の啓発ポスター等を活用する。</li> </ul>
	<p>B1 児童は家庭学習の習慣が身に付いている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「清原っ子の約束」を配付したり「カテ学振り返りウィーク」を設定したりして、家庭学習の重要性について保護者への啓発を図り、指導の効果を高める。</li> <li>・学級活動で家庭学習の仕方を指導し、目安となる時間や内容を提示したり、実践している児童を賞賛したりして、児童が家庭学習に取り組もうとする意欲を高める。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、教職員が91.1%、児童が85.4%と数値指標を上回ったが、保護者は68.3%と下回った。</li> <li>・「カテ学ふり返り週間」の設定により、学習習慣の定着が図られつつある。家庭との連携を図り、自主的に学習に取り組む態度を養いたい。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「家庭学習のすすめ」を参考にして、低学年から自主学習に取り組ませていく。</li> <li>・「カテ学ふり返り週間」を年に3回設定し、家庭と協力して家庭学習の質を高めていく。</li> </ul>
<p>目指す学校の</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内支援委員会を通して教職員間の情報共有を図るとともに、学級間の情報交換を密にして広く児童理解に努め、組織的に児童の支援に当たる。</li> <li>・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援を展開する。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、教職員が95.7%と数値指標を上回った。</li> <li>・年間3回の校内支援委員会で情報交換を密に行ったり、児童指導、不登校、特別支援、教育相談とケース会議を効率良く行ったりして、児童一人一人のニーズや悩みを把握して解決に努めた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き教員間の情報交換を密にし、ケース会議を効率良く行うことで、児童のニーズや悩みを的確に把握して児童一人一人が充実した学校生活を送れるよう支援する。</li> </ul>

<p>姿</p>	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ対策委員会」を設置し、組織的に対応する。</li> <li>・「いじめゼロ強調月間」を効果的に活用するとともに、いじめの実態把握、早期発見・対応のため、生活アンケートや定期教育相談を年2回実施する。</li> <li>・道徳科において、いじめに係る授業の充実を図るとともに、児童の小さな変化にも気を配ることで、いじめの早期発見、早期対応に努める。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、児童が97.6%、教職員が97.8%と数値指標を上回ったが、保護者は73.0%と下回った。</li> <li>・いじめの実態に応じて、関係職員で連携を図りながら組織的な対応に努めた。</li> <li>・「いじめゼロ強化月間」を通して啓発に努めるとともに、アンケートや教育相談を生かして早期発見・解決に努めた。</li> </ul> <p>A</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに関する情報交換を常時行い、迅速に対応できるように報告・連絡・相談の機能を充実させる。</li> <li>・「いじめゼロ強調月間」における児童の主体的な活動を推進するとともに、学校での取組を保護者に伝えて連携・協力を図っていく。</li> </ul>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童一人一人が存在感をもち、自己実現の喜びを実感できる学級経営を実践する。</li> <li>・「夢いっぱいプロジェクト」を推進し、児童同士、担任と児童との良好な関係を築く。</li> <li>・ケース会議や教育相談の充実を図り、児童一人一人のニーズや悩みを把握し、関係機関との連携を密に行いながら、個に応じた支援を展開する。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、児童が94.7%、教職員が97.8%と数値指標を上回ったが、保護者は83.3%と下回った。</li> <li>・担任は、児童の自己有用感を高め、良好な人間関係づくりに向け個に応じて支援するなど、温かい学級づくりに努めた。</li> </ul> <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科担任制やローテーション授業により、多方面から児童の状況を確認し、教職員の連携を密にすることで、児童一人一人の変化に早期に対応できるようにする。</li> <li>・ホームページや学校だより、学級懇談会の機会を通して、不登校対策についての学校の取組を保護者に情報提供していく。</li> </ul>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 ※A13で評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語ボランティアを活用し、個に応じた日本語指導を充実させる。</li> <li>・日本語教室での学びが学級内で生かされ、当該児童の学校生活の充実につながるよう、担任との連携を密にする。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合はA13に同じ。</li> <li>・外国人児童生徒教育拠点校に指定されているため、加配教員が配置され、充実した学習活動を行うことができた。</li> </ul> <p>B</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も国外からの児童の編入学の増加が予想されるため、より一層、当該児童への学習面や生活面、保護者へのサポートを充実させていく。</li> </ul>
	<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答95%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」の合言葉の浸透を図り、活気のある学校づくりを進める。また、HPや学校だよりを通して、学校の取組を保護者や地域に情報発信し、理解と協力を求める。</li> <li>・農園活動・共遊・児童会集会活動・縦割り班活動等を工夫、改善しながら、児童が生き生きと活動する教育活動を展開する。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は教職員と地域がいずれも100%と数値指標を上回ったが、保護者は90.2%、児童は87.0%と下回った。</li> <li>・担任は、児童の自己有用感を高め、良好な人間関係づくりに努めた。学校行事や縦割り班活動、児童会活動では、児童の主体的な活動が随所に見られた。</li> </ul> <p>A</p> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「夢プロジェクト」の実践を通して、良好な人間関係づくりに努め、児童一人一人が自己実現の喜びを実感できる学級経営を推進する。</li> </ul>

<p>A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内で授業の進め方、板書の仕方等の共通理解と共通実践に基づき、日々の授業の充実を図るとともに、朝の「学習タイム」を活用し、課題の質・量・手立て等を工夫しながら、基礎学力を確実に定着させる。</li> <li>・少人数指導や特別支援教育担当と共通理解を深め、個に応じた指導の充実がより一層図れるよう、児童に係る教職員間の情報交換を密にしながら学習指導を進めていく。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、児童が94.6%、教職員が100%と、数値指標を上回ったが、保護者は78.7%と下回った。</li> <li>・朝の学習を国語・算数に指定したことにより基礎的な学習内容の定着に効果を挙げている。</li> <li>・授業の進め方や板書の仕方については、共通理解や共通実践が進んでいる。</li> <li>・少人数指導や個に応じた指導、特別支援学級、日本語指導、かがやきルームの対応等により、児童一人一人のニーズに応じて効果的に支援することができた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の学習の時間に効率よく学習できるように、引き続き課題の質・量・手立て等を工夫しながら支援していく。学年で計画を立てて、学習の見通しをもたせる。</li> <li>・少人数指導や特別支援教育担当、学級担任等の連携を深め、より個に応じた指導の充実が図られるようにする。</li> </ul>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事や授業の準備等、学年内での役割分担を的確に行い、連携を密にして教育活動を行う。</li> <li>・かがやきルーム指導員、学校図書館司書、日本語ボランティア、SC、ALT等との学校スタッフと積極的に情報交換を行い、教育活動が効率的に機能するよう取り組む。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、教職員が95.7%と数値目標を上回った。</li> <li>・全職員の協力により、計画された行事を滞りなく遂行することができた。</li> <li>・情報交換を積極的に行い、個に応じた指導、支援を実践することができた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実効性のある業務分担を進め、職員の連携を密にしながら教育活動を充実させていく。</li> </ul>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度に実施した「働き方改革プロジェクト」の検討を踏まえ、取組を着実に実施し、業務の効率化を図る。</li> <li>・リフレッシュデーを毎月設定し、計画的な業務遂行に努める。</li> </ul>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、教職員が93.5%と数値指標を上回った。</li> <li>・職場環境の整備を図ったり、職員一人一人が勤務時間を意識した業務遂行に努めたりするなど、業務の効率化に取り組んだ。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事の精選や日課の見直しを行い、学校の重点課題への取組を充実させる。</li> <li>・学校の働き方改革の実践を地域や保護者に発信し、理解と協力を求める。</li> </ul>

<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>○中学生と一緒に年3回あいさつ運動を実施し、中学校と連携した児童生徒指導の取組を行う。</p> <p>○中学校教員による年3回の乗り入れ授業や6年児童の進学先中学校訪問、児童生徒指導強化連絡会を通して、小中学校の情報交換を密に行うことで、6年児童の中学校進学をスムーズに行う。</p> <p>○地域学校園の各部会の検討を通して、小中学校の教職員が目標を共有しながら取組を進める。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、児童が88.7%、教職員が97.8%と数値指標を上回った。</li> <li>・年3回の地域学校園あいさつ運動を通して、中学生の挨拶を手本にしながら意識付けを図った。</li> <li>・6年生にとっては、中学校の教員による授業実践や進学予定校への訪問などが進学へ向けての意欲付けに良い影響を与えている。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同でのあいさつ運動や宮っこチャレンジに積極的に取り組むとともに、よりスムーズに中学校への進学を進めるため、6年生に対して、中学校訪問を機会に中学校における生活の決まりを事前に伝達する機会をもつ。</li> </ul>
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域協議会との連携を進め、農園活動や食育出前講座等の特色ある活動の充実を図る。</li> <li>・企業等の出前授業を効果的に取り入れたり、地域の幼稚園、保育園との交流を実施したりするなど、専門的、体験的な学習活動を行う。</li> </ul>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、教職員が97.8%、保護者が87.6%、地域が100%、児童が93.5%といずれも数値指標を上回った。</li> <li>・地域や企業の教育力を生かし、学習効果を高めることができた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、地域協議会やPTA組織と連携し、ボランティアの協力を効果的に得ながら教育活動の充実を図る。外部講師を招いての教育活動については、実践内容を精選し、実効性を高める。</li> </ul>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 ※A22で評価</p>	<p>○地域協議会を中心に、学校・家庭・地域が一体となって、児童の安全確保や健全育成の取組を更に強化する。</p> <p>○地域コーディネーターを通して、保護者・地域・企業等と連携、協力して、授業や学校行事における学校支援ボランティアの活用を進め、教育活動の充実を目指す。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合はA22に同じ。</li> <li>・スクールゾーン点検や通学路の合同点検など、地域や保護者と連携した取組を実施し、児童の安全確保に努めた。</li> <li>・保護者・地域・企業等と連携、協力して、教育活動の充実を図ることができた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、地域や保護者の協力を得ながら、児童の登下校の安全確保に努める。</li> <li>・懇談会やPTA活動を通して保護者との交流を深める。また、地域協議会やPTA組織との連携を図り、ボランティアを活用した教育活動を計画的に実施する。</li> </ul>

<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員・保護者の肯定的回答90%以上</p>	<p>・月1回の安全点検を着実に実施し、危険箇所を発見した場合は速やかに修繕するとともに、各種、学校の行事を実施する際には、来校された方々の安全にも配慮するなど適切な環境づくりに努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、教職員が97.8%と数値指標を上回ったが、保護者は86.3%と下回った。</li> <li>・毎月の安全点検を着実に実施し、危険箇所の早期発見や事故の未然防止に努めた。</li> <li>・「清央小遊びの約束」を今年度作成し、職員に周知、掲示物を各学級へ掲示することで休み時間の校庭のエリア分けを行い、児童の安全確保に努めた。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動会や持久走大会など多くの方が来校される学校行事では、色々な立場での動線を考え、計画に反映する。</li> <li>・ホームページや学校だより等で、学校の取組を保護者に情報提供していく。</li> </ul>
<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 ※A10で評価</p>	<p>・パソコンやデジタル教材等、ICT機器等の整備に努めるとともに、授業研究会を通し、教職員の指導力向上を図る。</p> <p>・より一層本に親しみやすい図書室をめざし、継続して環境整備に努める。また、地域の歴史を素材とした資料の整備等、潤いのある環境づくりに取り組む。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合はA10に同じ。</li> <li>・学校図書館司書の協力を得て、学校図書館や市立図書館から授業に必要な資料や図書を準備し、充実した調べ学習ができた。</li> <li>・読書週間を設定するなどして、児童が本に親しむ機会を意図的、計画的に増やし、児童の興味関心を高めた。</li> <li>・職員研修で、プログラミング教育に関する研修を行い、指導力の向上を図った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい教科書の内容に沿った資料をそろえ、授業に対応できるよう蔵書整備を行う。購入資料選定の際に、幅広い資料を選定できるように、全職員で資料を選択できる環境づくりを引き続き行う。</li> <li>・学級文庫を図書室から定期的に貸し出すことで、良書に触れる機会を増やし読書意欲の向上を図る。6年間を通して「読書記録」を記入し続けることで、自身の読書傾向を知る手掛かりにし読書の質を高めていく。</li> <li>・タブレット型パソコンが導入されたので、それを授業に積極的に活用していく。</li> </ul>
<p>B2 教職員は学校課題に関する研究に主体的に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら協働的に研究を進める。</p> <p>・一人一授業を公開し、児童の学びの姿を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に努める。</p>	<p>【達成状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定的回答の割合は、教職員が97.8%と数値指標を上回った。</li> <li>・一人一授業や積極的な授業公開・授業研究会等を通して、指導内容や指導方法の工夫改善について意見交換を行った。</li> <li>・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果では、「読むこと」に関して、市の平均を上回った。</li> </ul> <p>【次年度の方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国学力テスト、学習内容定着度調査、とちぎっ子学習状況調査等の結果を分析し校内研修等で検討することにより、引き続き指導内容や指導方法の工夫改善を図っていく。</li> </ul>

本校の特色・課題等	<p>B3 学校は「夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小」の合言葉の下、夢を育む教育活動を推進している。</p> <p>【数値指標】 児童・教職員・保護者・地域の肯定的回答 90%以上</p>	<p>・「夢いっぱいプロジェクト」を推進し、児童一人一人が充実感や達成感を味わえる取組を積極的に行う。</p> <p>・縦割り班活動や異学年交流の充実を図り、互いを認め、互いを大切にする心を育てる。</p> <p>【清掃、ドリームタイム、農園活動等】</p>	<p>【達成状況】</p> <p>・肯定的回答の割合は、教職員が 97.8%、地域が 100%と数値指標を上回ったが、児童は 86.8%、保護者は 85.1%と下回った。</p> <p>・児童が学校行事や児童会行事に積極的に取り組めるよう、「夢いっぱいプロジェクト」を通して支援した。意欲的に活動する姿が随所に見られたが、今後も活動の意義を丁寧に説明し、児童の積極性を高めたい。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・年度初めに「夢いっぱいプロジェクト」や縦割り班活動の意義を丁寧に児童に伝える機会を設ける。</p> <p>・めあてを考える時間を日課表に位置付けるなどして、目的意識や活動の意義を児童がより深く認識できるようにする。</p>
	<p>B4 学校はPTAや地域、行政と連携しながら、分離新設に向けた準備を着実に進めている。</p> <p>【数値指標】 教職員・保護者・地域の肯定的回答 80%以上</p>	<p>・分離新設に向け、地域協議会や保護者懇談会において情報を発信していく。また、保護者や地域の願いを反映できるよう、連携を密にしていく。</p>	<p>【達成状況】</p> <p>・肯定的回答の割合は、教職員が 97.8%、保護者が 85.1%、地域が 100%といずれも数値指標を上回った。</p> <p>・分離新設に向けた検討事項や準備内容等について、地域協議会やPTAの会議の場を中心に、地域や保護者に進捗状況等を随時伝えた。また、保護者や地域の願いを反映できるよう、教育委員会との連携を図った。</p> <p>【次年度の方針】</p> <p>・新設校開校に向けて、全教職員が連携し滞りなく準備を進める。</p> <p>・地域協議会や保護者懇談会等、機を捉えて情報を発信していくとともに、地域住民や保護者との連携を密にしながら、協議、準備を進めていく。</p>

### 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

<p>・29項目中14項目で、肯定的回答の割合が数値指標を上回っている。</p> <p>・児童の評価では、A10、A25「ICT機器や図書等を学習に活用している。(整備している。)」の項目を除き、27項目で8割以上の児童から肯定的評価を得ており、児童の自己肯定感や自己有用感是比较的高い水準を維持していると思われる。</p> <p>○A3「児童はきまりやマナーを守って生活している。」の項目では、数値指標は下回ったものの、児童の肯定的回答の割合が昨年より2ポイント以上向上した。今後も継続して生活や学習の指針を児童と共に確認し、定着を図っていく。</p> <p>○A4「児童は時と場に応じた挨拶をしている。」の項目では、数値指標は下回ったものの、保護者の肯定的回答の割合が8ポイント向上した。地域学校園での挨拶運動や児童の主体的な活動を推進し、取組の実績を情報発信していく。</p> <p>○A22「学校は地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している」の項目では、教職員、保護者、地域住民、児童のすべてで数値指標を達成している。ボランティアの協力を得たり、企業等の出前授業を活用したりするなどして、特色ある教育活動を充実させることができている。</p> <p>・A9「児童は宇都宮の良さを知っている。」の項目では、保護者の肯定的回答の割合が5割を切り、市小学校全体の平均も下回っている。「宇都宮学」の学習を充実させ、地域に愛着をもつとともに、清原地域を中心とした宇都宮市の特色を理解できるよう指導を工夫していく。</p> <p>・A10、A25「ICT機器や図書等を学習に活用している。(整備している。)」の項目では、児童の肯定的回答の割合が76.2%で、数値指標を4ポイント下回っている。今年度末に導入されたタブレット型パソコンを積極的に活用するとともに、プログラミング教育の充実を図る。</p> <p>・B3「学校は『夢いっぱい 友だちいっぱい 清央小』の合言葉の下、夢を育む教育活動を推進している。」の項目では、教職員、地域住民の肯定的回答の割合は数値指標を上回ったが、保護者、児童は下回っている。活動の意義を児童に理解させ、目的意識をもって取り組めるようにするとともに、保護者に情報発信し、連携して支援できるようにする。</p>
--

## 7 学校関係者評価

- ・挨拶については保護者の評価は高くはないようだが、地域に住む児童からは元気に挨拶を受けている印象が強い。ボランティアとして来校したとき、廊下ですれ違った際にも挨拶をしてくれる児童は多い。
- ・教職員や児童と比較して保護者の評価が全体的に高くはないようだが、児童は、学校では集団の生活や学習に努力しているものと推測している。家庭ではリラックスして生活しているのかも知れない。
- ・全体的に児童の自己評価が高く安心している。自己肯定感や自己有用感については一定の水準を維持しているものと思われる。
- ・授業を参観すると、児童は学習に真面目に取り組んでいると思われる。グループの学習でも内容をしっかりまとめている様子がうかがえる。発表時の声が小さく、内容が伝わりづらい印象があり、自分の考えを分かりやすく伝えていく力を身に付けていくことが課題として挙げられる。
- ・朝の読み聞かせの様子では、児童は落ち着いて集中して話を聞いている。聞く態度は良好である。
- ・児童はまとめて比較的安全に登校している。学校や保護者の指導が浸透しているように思える。下校については、時折、注意が必要な場面も見受けられるので、今後も地域、保護者、学校が連携して見守っていきたい。
- ・農園活動等で児童の行動の様子を見てみると、積極性のある児童、やや消極的な児童等様々である。主体的に行動できる児童を育てていくことも課題の1つかもしれない。
- ・他地域から転居される方も多く、宇都宮の良さを実感できるまでには時間がかかるかもしれない。学校での「宇都宮学」の学習に期待したい。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・児童の自己評価が比較的高い結果となった。今後も、計画的に、児童が主体的に活動できる場を設定し、取組を工夫していくとともに、個に応じた支援を継続することで児童の自己肯定感や自己有用感を高めていく。
- 学習面については、家庭学習の習慣化を図るため、「カテ学ふり返り週間」を年3回設定し保護者に協力を求める。また、授業中、児童が自分の考えをまとめ、他者に分かりやすく伝える表現力を身に付けられるよう、繰り返し指導していく。
- 生活面については、「望ましい挨拶の習慣化」に関して、保護者や児童の肯定的評価の割合が徐々に高まっている。「自ら進んで挨拶をする」望ましい態度を更に身に付けていけるよう、児童の主体的な取組を積極的に支援し、活動を活性化していく。また、家庭や地域にも学校の取組を伝え、連携して支援ができるよう協力を求める。
- ・「夢いっぱいプロジェクト」を推進する。児童が目標達成に向けて意欲的に活動に取り組めるよう、取組の意義やねらいを十分に理解させるとともに、学校の取組を保護者や地域に継続して情報発信していく。
- ・「いじめ」や「不登校」の問題に関する地域や保護者の関心は高い。これらの問題を解決するためには、関係機関や保護者、地域との連携が必要であることから、地域協議会や学級学年懇談会等の機会を利用して必要な情報を提供し、いじめ防止やいじめの早期解決に向けた学校の取組を伝え、学校の信頼をより高められるよう努めていく。また、いじめ防止に向けた児童の創意ある主体的な活動を支援するとともに、コミュニケーション力や友達とよい関係を築く力を身に付けさせる。